

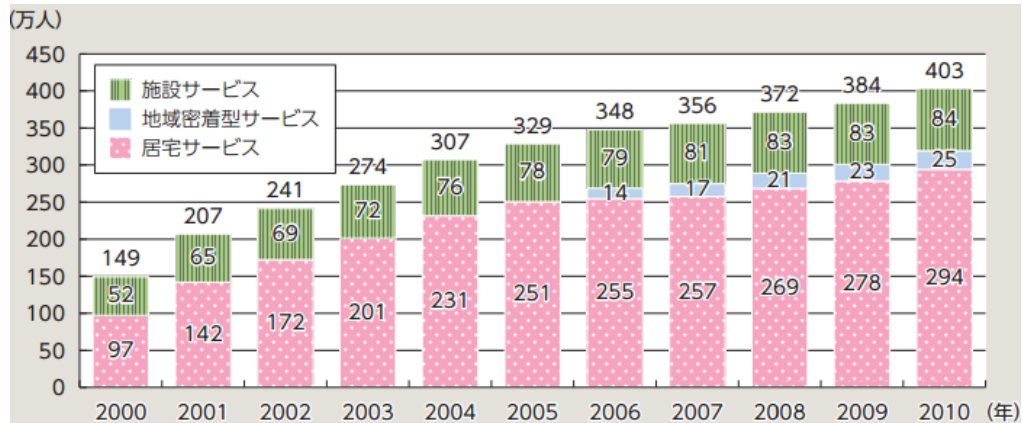
## 3-1 介護業界の財務

執筆担当：荒井 康之

### 1. 介護業界の基本情報

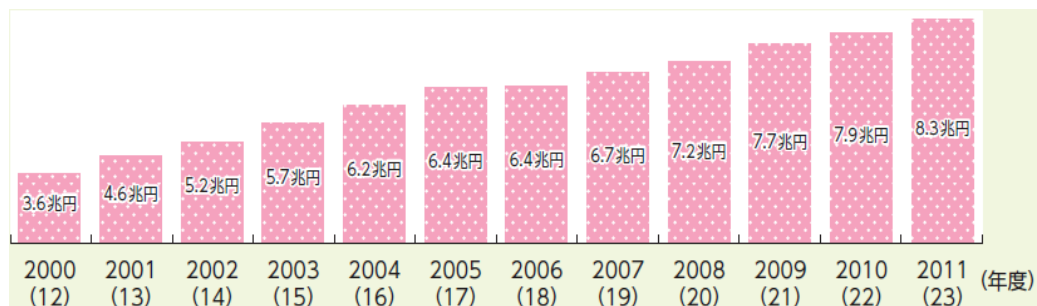
#### (1) 介護保険制度の発展(厚生労働白書より)

高齢化の進展に伴う要介護高齢者の増加や核家族化の進行など、要介護者を支えてきた家族をめぐる状況の変化に対応するため、社会全体で高齢者介護を支える仕組みとして、2000年(平成12年)4月に介護保険制度が創設されました。介護サービスの利用者は在宅サービスを中心に着実に増加しており、2010年(平成22年)には400万人になっています。介護保険制度は2005年(平成17年)に大幅な改正を行なわれ、予防重視型システムへの転換、地域を中心とした新たなサービス体系としての地域密着型サービスの導入、地域包括支援センターの創設等、地域包括ケアシステムの実現に向かっていきます。2011年には介護保険法の改正と介護報酬改定が行われ、サービスの充実が図られました。下記の図に2000年から2010年までのサービス受給者の推移を示します。今後も継続した増加が見込まれます。



#### (2) 介護保険制度の課題

サービス利用の大幅な伸びに伴い、介護費用は急速に増大しています。今後、高齢化がさらに進展し、団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)には、高齢者の人口が3,500万人、介護費用は約20兆円になることが見込まれているため、将来にわたって安定的に介護保険を運用するためには、給付と負担のバランスについての議論が必要です。家族や介護を必要とする人たちのニーズにこたえられるようサービスの提供者や地域の協力など介護業界に求められる要望は非常に高いといえます。下記に国の介護保険総費用の推移を示します。



(3) 介護業界の産業分類（平成 19 年 11 月改定）

大分類 P-医療、福祉

中分類 85-社会保険・社会福祉・介護事業

853 児童福祉事業

**854 老人福祉・介護業**

8541 特別養護老人ホーム

8542 介護老人保健施設

8543 通所・短期入所介護事業

8544 訪問介護事業

8545 認知症老人グループホーム

8546 有料老人ホーム

8547 その他の老人福祉・介護事業

855 障害者福祉事業

(4) 介護サービスの種類

上記分類の介護サービスは主に下記の表に示す 3 種類にまとめることができます。

居宅(在宅)介護サービス	地域密着型サービス	施設介護サービス
訪問介護 (ホームヘルパー)	グループホーム	特別養護老人ホーム
通所介護 (デイサービス)	小規模多機能型居宅 介護	老人保健施設
ショートステイ		療養型病床群

## 2. 介護業界の企業と規模

(1) 介護業界の事業会社

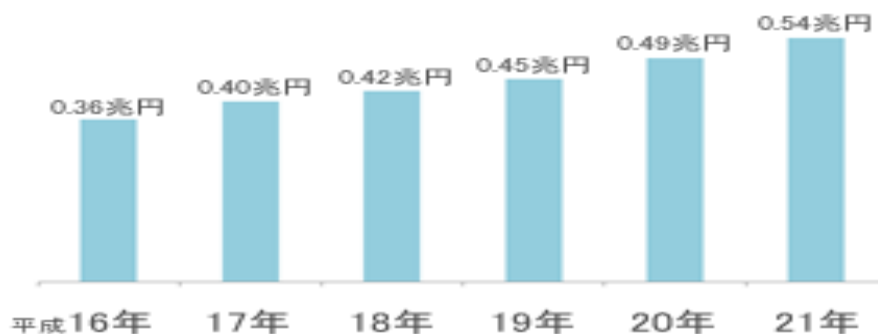
平成 21 年度の介護業界の事業会社を売り上げ規模順に下記の表に示します。

ニチイ学館が他社規模を大幅に上回り、上位 20 社の売上高合計に対して 43.6%と最も大きな規模を有しています。業界 2 位のベネッセ HD は、ニチイ学館の 5 分の 1 ほどの売上高となっており、以下、規模の小さな企業が多数存在しています。

	企業名	売上高(億円)		企業名	売上高(億円)
1	ニチイ学館	2,353	11	日本ケアサプライ	83
2	ベネッセ HD	446	12	シダー	83
3	ツクイ	394	13	ロングライフ HD	81
4	セコム	377	14	シップヘルスケア HD	68
5	メッセージ	319	15	ケア 21	63
6	メデカジャパン	268	16	ケアサービス	55
7	セントケア HD	205	17	日本医療事務センター	52
8	ジャパンケアサービス	200	18	やまねメディカル	52
9	ワタミ	174	19	ヒューマン HD	31
10	メディカル・ケア・サービス	106	20	光ハイツ・ベラス	28

## (2) 介護業界の売上高の推移

平成 16 年から 21 年までの介護業界の売上高推移を下記の図に示します。業界上位 20 社の売上高合計は平成 21 年(2009 年)で約 5,400 億円でした。国の介護保険総費用が平成 16 年から 21 年で 24%増加しており、業界の規模はそれを上回る 50%で成長しています。サービスの受給者が年々増加し国の介護保険総費用も増加しているため、業界の規模としては順調に拡大しています。今後も継続した規模の拡大が予想されます。



## 3. 事例企業の概要

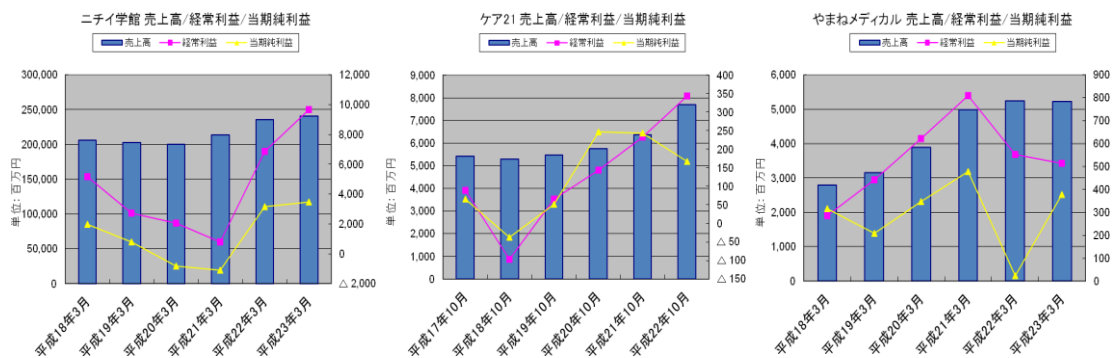
今回検討する企業は、介護業界 1 位の株式会社ニチイ学館、15 位の株式会社ケア 21、18 位の株式会社やまねメディカルの 3 社です。各企業の概要を以下の表に示します。

	(株)ニチイ学館	(株)ケア 21	(株)やまねメディカル
事業内容	医療関連 ヘルスケア 教育サービス	在宅介護事業 施設介護事業	通所介護施設の経営 通所介護施設のフランチャイズ事業
経営理念	私たちは誠意をもって社会参加を信条とし、社業の社会的使命を弁え、誇りを持って行動し、若々しい情熱で限りない未来への可能性に挑戦します。そして、社業の発展を通して豊かな人間社会の向上に貢献します。	- 福祉・教育・文化の 3 分野を通じて社会貢献 - 最大ではなく最高の福祉サービスの提供 - 人間の尊厳を尊重し、ご利用者本位の真心と優しさのこもった福祉サービスの提供 他 5 項目	ご利用者様の満足と QOL(生活の豊かさ)の向上 「高品質」の通所介護サービスの「効率的」な提供を通じて、豊かな高齢化社会の創造に貢献する
設立	1973 年(昭和 48 年)	1993 年(平成 5 年)	2002 年(平成 14 年)
所在地	東京都千代田区	大阪市北区	東京都中央区
売上高	240,827 百万円	7,687 百万円	5,220 百万円
総資産額	125,781 百万円	5,989 百万円	2,893 百万円
従業員数	93,678 人	2,834 人	976 人
事業所数	2261 か所	127 か所	79 か所
利用者数	138,081 人	9,496 人	21,800 人
特徴	業界最大手。	東京、名古屋、大阪、福岡の大都市に拠点。	東京 23 区に集中。

#### 4. 介護業界の収益構造の特徴

事例企業3社の業績は、下記の図表の通りです。

(単位:百万円)	(株)ニチイ学館			(株)ケア21			(株)やまねメディカル		
	H21/3	H22/3	H/23/3	H20/10	H/21/10	H22/10	H21/3	H22/3	H23/3
売上高	213,602	235,352	240,827	5,764	6,375	7,687	4,991	5,247	5,220
売上原価	174,900	188,499	193,033	4,057	4,449	5,654	3,724	4,168	4,231
売上総利益	38,701	46,853	47,794	1,707	1,926	2,033	1,267	1,079	990
売上高総利益率	18.1%	19.9%	19.8%	29.6%	30.2%	26.4%	25.4%	20.6%	19.0%
販売・一般管理費	37,688	39,989	39,925	1,557	1,650	1,930	445	527	541
営業利益	1,014	6,864	7,869	149	276	101	822	551	449
営業利益率	0.5%	2.9%	3.3%	2.6%	4.3%	1.3%	16.5%	10.5%	8.6%
経常利益	800	6,877	9,660	144	233	343	810	553	513
経常利益率	0.4%	2.9%	4.0%	2.5%	3.7%	4.5%	16.2%	10.5%	9.8%
当期純利益	▲ 1,091	3,155	3,478	247	244	167	479	24	377
当期純利益率	-0.5%	1.3%	1.4%	4.3%	3.8%	2.2%	9.6%	0.5%	7.2%



いずれの企業も売上高の伸び率はまちまちですが増加傾向にあります。(青い棒グラフ) 利益は各企業個別の経営状況が著しく反映されているため、単純な傾向で把握することは難しいですが、今後の業界の発展を考えると各企業とも業績を改善し、伸ばしていくことが考えられます。

ニチイ学館は平成19年に介護報酬不正請求で事業撤退したコムスの居住系サービスの事業継承を受けました。平成20年度、平成21年度で赤字を計上しましたが、その後V字回復を果たしています。売上には、医療関連、ヘルスケア、教育の3事業が含まれており、介護事業を取り扱うヘルスケア部門が、売上げのほぼ半分を占めています。教育部門の売上比率は5%程度と低いですが、ホームヘルパー2級講座が開催され6万人以上が受講しています。

ケア21は平成18年度に赤字決算となりましたが、その後、売上、経常利益とも順調に増加、回復してきています。平成22年度の当期純利益が前年度に比べて減少していますが、これは平成20年度、平成21年度に株式売却益が特別利益としてあって嵩上げされているためです。経常利益、経常利益率とも増加を続けています。

やまねメディカルは平成21年度まで順調に売上、経常利益を伸ばしていましたが、平成22年度に指定申請の提出書類が不適正に作成されたことを東京都から指摘されました。その結果、22か所の通所介護施設で新規利用者の一定期間受け入れ停止の行政処分を受けたことが影響し、その後の業績が足踏みしています。

直近の売上高総利益率を比較すると、ケア21は26.4%で最も高く、やまねメディカルが

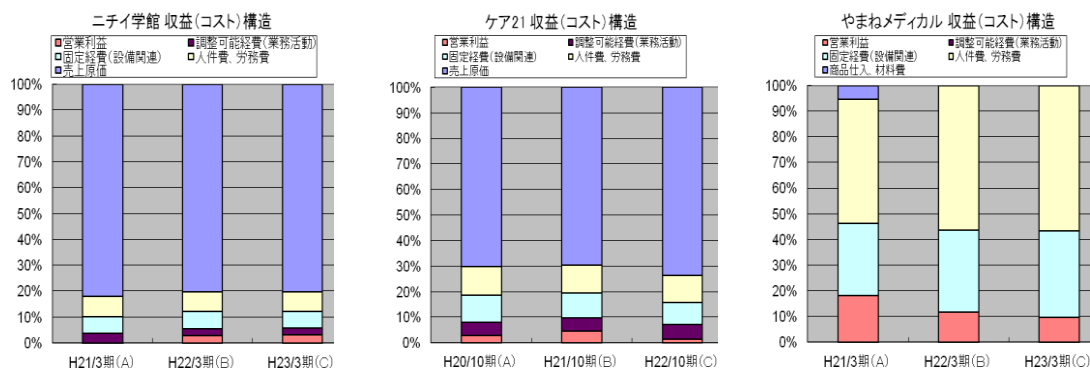
19.0%、ニチイ学館は19.8%となっています。しかし、営業利益率はやまねメディカルが8.6%で最も高く、ケア21が1.3%、ニチイ学館が3.3%です。やまねメディカルは通所介護施設の運営が中心のため収益率は高く、在宅介護事業をメインとするケア21は販管費の高い事業構造を持っており、最も規模が大きく総合サービスを提供するニチイ学館は、外部委託もあり、販管費も相応に必要となるため、収益性が低く抑えられている事業モデルになっていると捉えることができます。

次に各企業の収益構造と1人当たりの売上高、労働生産性を見てみます。

(単位:百万円)	株ニチイ学館			株ケア21			株やまねメディカル		
	H21/3	H22/3	H23/3	H20/10	H21/10	H22/10	H21/3	H22/3	H23/3
売上高	213,602	235,352	240,827	5,764	6,375	7,687	4,991	5,247	5,220
売上原価	174,900	188,499	193,033	4,057	4,449	5,654	237	0	0
人件費	17,039	18,390	18,418	641	688	816	2,204	2,654	2,651
固定経費(設備関連)	13,926	15,428	15,479	604	622	665	1,283	1,514	1,579
調整可能経費(業務活動)	6,722	6,171	6,028	313	341	442	0	0	0
営業利益	1,014	6,864	7,869	149	276	101	822	551	449
従業員数	90,371	93,015	93,678	2,145	2,402	2,834	928	978	976
一人当たり売上高(千円)	2,364	2,530	2,571	2,687	2,654	2,712	5,378	5,365	5,348
労働分配率	8.0%	7.8%	7.6%	11.1%	10.8%	10.6%	44.2%	50.6%	50.8%
付加価値生産性(千円)	428	504	510	796	802	717	5,123	5,365	5,348

従業員数はニチイ学館が9万3千人強とダントツで抜けています。ケア21が2800人、やまねメディカルは1000人弱です。一人当たり売上高をみるとニチイ学館とケア21は260万円前後で同じ程度ですが、やまねメディカルは約530万円と非常に高くなっています。その傾向は労働分配率、付加価値生産性でも見て取れます。

下記の図は、収益(コスト)構造をグラフで示しています。

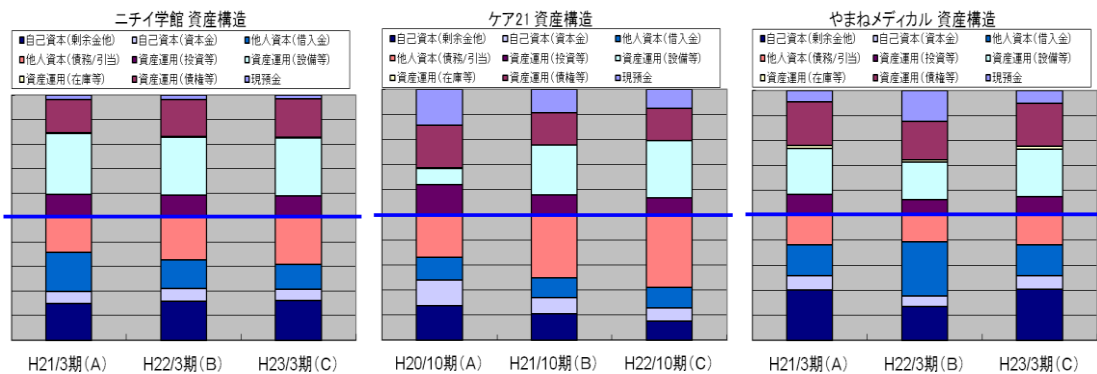


ニチイ学館およびケア21は連結財務諸表になっており、やまねメディカルは提出会社の財務諸表になっているため、比較項目が違ってしまったためグラフの見え方が異なります。営業利益率で比較するとニチイ学館、ケア21とも5%以下ですが、やまねメディカルは年度ごとに減少していても8.6%と高い水準にあります。

## 5. 介護業界の資産構造の特徴

次に示す図表は事例3社の資産構造です。

(単位: 百万円)	(株)ニチイ学館			(株)ケア21			(株)やまねメディカル		
	H21/3	H22/3	H/23/3	H20/10	H/21/10	H22/10	H21/3	H22/3	H23/3
現預金等	4,728	4,128	3,913	899	909	900	234	854	300
債権等	32,336	36,454	39,563	1,062	1,222	1,542	925	1,074	983
在庫等	470	548	688	10	0	0	73	77	84
設備等	60,625	56,240	59,345	415	1,903	2,754	962	1,056	1,093
投資等	22,333	21,711	22,272	746	759	793	443	429	433
債務/引当	34,429	41,463	48,489	1,072	2,417	3,484	627	741	683
借入金	38,189	27,890	25,092	569	746	970	654	1,511	721
資本金	11,934	11,934	11,934	633	633	633	304	304	304
剰余金他	35,940	37,794	40,266	857	997	903	1,053	934	1,186
うち利益剰余金	24,820	26,912	29,493	121	340	458	871	784	1,051
総資産額	120,492	119,081	125,781	3,132	4,794	5,989	2,637	3,490	2,893



ニチイ学館は業界の最大手企業として、他の2社と比べて非常に安定した資産構造を持っており、年度ごとの差異が少なくなっています。自己資本比率が40%程あり、ほとんど変化していません。ケア21は総資産の額が毎年大きく増加しています。資金の多くを債務/引当で賄い、総資産額が増加しているため自己資本比率は25%程度まで減少しています。その運用先は主に設備等で、その額が大きく増加していることが読み取れます。やまねメディカルは平成22年3月期に著しい借入金の増加があったために、前後の期と比べて資産構造が大きく変わっていますが、この期の特殊要因を除くと自己資本比率50%を維持しています。

この業界は在庫が非常に少ないのが特徴です。また、設備への投資が大きな割合を占めていることが読み取れます。

## 6. 介護業界のキャッシュ・フローの特徴

次の表に事例3社のキャッシュ・フローを示します。

(単位: 百万円)	(株)ニチイ学館			(株)ケア21			(株)やまねメディカル		
	H21/3	H22/3	H/23/3	H20/10	H/21/10	H22/10	H21/3	H22/3	H23/3
営業CF	2,337	11,726	9,795	161	51	430	439	99	588
投資CF	▲ 4,139	▲ 738	▲ 5,403	202	▲ 68	▲ 495	▲ 494	▲ 221	▲ 135
フリーCF	▲ 1,802	10,988	4,392	363	▲ 17	▲ 65	▲ 55	▲ 122	453
財務CF	2,773	▲ 11,607	▲ 4,518	▲ 88	28	56	▲ 160	687	▲ 951
CF期末残高	4,436	3,865	3,755	889	899	890	234	800	302
CFパターン	3	4	4	2	3	3	4	3	4

3企業共通の特徴としては、営業キャッシュ・フローがいずれもプラスであり、企業運営として健全な状態にあるといえます。設備投資はどの企業も基本継続的に行っており、フリーCFがプラスのときは、余剰キャッシュを借入金等の返済にまわしています。キャッ

シュフローパターンはそれぞれ(営業、投資、財務)のキャッシュ・フローがプラスかマイナスかで分類分けを行っており、CFパターン4は優良企業に多く、CFパターン3は積極経営の会社に現れることが多い指標です。事例企業はほぼいずれかのパターンになっており、順調な営業活動と事業拡大が行われていると考えられます。

## 7. 介護業界の経営指標の特徴

次に示す表は、各社の主な経営指標です。

	㈱ニチイ学館			㈱ケア21			㈱やまねメディカル		
	H21/3	H22/3	H23/3	H20/10	H21/10	H22/10	H21/3	H22/3	H23/3
ROA (%)	▲ 0.91	2.65	2.77	7.89	5.09	2.79	18.16	0.69	13.03
総資本回転率(回)	1.77	1.98	1.91	1.84	1.33	1.28	1.89	1.50	1.80
売上債権回転期間(日)	44.0	44.3	45.3	59.1	62.9	62.3	63.8	64.6	64.6
棚卸債権回転期間(日)	0.8	0.9	1.0	0.6	0.0	0.0	5.3	5.4	5.9
流動比率 (%)	101.18	119.24	111.65	174.89	155.09	129.89	105.93	127.63	175.71
自己資本比率 (%)	39.57	41.57	41.30	47.57	34.00	25.65	51.46	35.47	51.50
固定長期適合率 (%)	99.48	92.15	94.66	5.84	77.89	86.30	95.32	77.44	72.12
借入金依存度 (%)	31.69	23.42	19.95	18.17	15.56	16.20	24.80	43.30	24.92

### ① ROA (総資本当期純利益率)

各企業、まちまちの水準になっています。ニチイ学館の直前2期間は2.7%前後で、低い方であるといえます。ケア21は総資本が増加していく中で当期純利益が減少したため、急激に低くなる傾向です。やまねメディカルは平成22年3月期を除けば10%台と高くなっています。企業規模が小さいと設備を増やさずに運営する方針を取ることによってROAが高めになっています。

### ② 総資本回転率

総資本回転率については、ニチイ学館が1.9回、ケア21が1.3回、やまねメディカルが1.8回と比較的企業間の格差が少ないですが、ケア21は売上が伸びる中、それ以上に総資本も増加しているため、総資本回転率の減少傾向が見て取れます。

### ③ 売上債権回転期間

ニチイ学館が45日、ケア21が62日、やまねメディカルが65日となっており、規模の小さな2企業は売上債権回転期間が長くなっています。利用サービスの支払いは後払いのものが多く、売上に対する行政機関からの介護保険料の受け取り比率が高いと長い期間を要するためだと思われます。

### ④ 棚卸資産回転期間

この業界は在庫をほとんど持ちません。そのため棚卸資産回転期間は非常に短く、ニチイ学館は1日以下であり、ケア21は在庫としての計上を2期前からなくしました。多くてもやまねメディカルの6日以下の水準です。

### ⑤ 流動比率

ニチイ学館は平成23年3月期に112%と3社では最も低くなっていますが、流動比率は短期的な支払能力を見る指標であり、一般的には少なくとも100%を超えていれば、安全とされていますので、問題は無いと思われます。ケア21は毎年減少傾向にありますが、平成22年10月期で130%あり、やまねメディカルは毎年増加傾向で176%あります。

### ⑥ 自己資本比率

ニチイ学館は全3期間40%前後を維持しています。ケア21は減少傾向で26%まで直

前期は低下しました。やまねメディカルは1期前に35%まで低下しましたが、直前期は52%に回復しています。

⑦ 固定長期適合率

いずれの企業も100%を下回っており、固定資産が自己資本と社債もしくは長期借入金などの固定負債で賄われています。

⑧ 借入金依存度

ニチイ学館は借入金を返済し、減少しています。ケア21は借入金が増え総資本も増えて、借入金依存度は横ばい傾向です。やまねメディカルも基本横ばいです。

## 8. 事例企業と介護業界の課題

今回、介護業界で特徴的な事業運営を行う3企業を事例に財務状況からその経営状況を検討してきました。最後に各事例企業のまとめと介護業界の課題を挙げておきたいと思います。

### (1) ニチイ学館

全国に支店を持つニチイ学館は、2011年3月の東日本大震災により東北地方で直接の影響を受けました。管轄エリアには医療関連事業、ヘルスケア事業、教育事業があり被災しています。しかし、企業全体の経営に対する財務上の影響としては大きなインパクトは残しませんでした。

ニチイ学館は在宅系、居住系介護サービスを提供しておりこれらの事業成長を図りつつ、今後は介護保険外のサービス(障害福祉サービス、家事代行サービス、セラピーサービス等)の拡大を目指しています。また、今後は高い経済成長と急速な高齢化の進展が見込まれる中国やアジア・太平洋地域においてグローバルな事業展開を視野に入れた成長戦略も模索しています。

### (2) ケア21

在宅介護事業と施設介護事業で成長を続けています。特に施設介護事業は近年急速に新規出店を増やして、その財務的な経営状況を今回の事例検討から読み取ることができます。

出店の促進を図り営業拠点数を拡大するためには、訪問・施設介護サービスの提供者(ケアマネージャ、介護福祉士、ホームヘルパー等)の恒常的な不足を解消し、当該サービスの質を上げるために優秀な人材の確保、適切な人材配置、教育研修などが課題として挙げられます。

### (3) やまねメディカル

通所介護事業(デイサービス)で急速に右肩上がりの成長を続けてきましたが、平成21年に施設利用費用の不適切な徴収など問題となり、指定申請の提出書類が不適正に作成されたことから行政処分を受け、新規利用者の一定期間受け入れ停止処分となりました。その影響と対策が財務諸表に現れています。

サービスを提供する従業員の教育やレベル向上とともに、内部統制、内部管理体制の再構築、強化は介護業界共通の課題でもあります。

以上